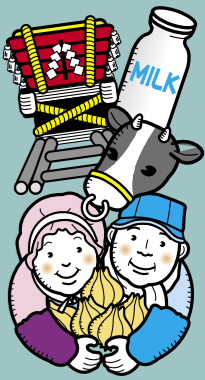


地域の催しや明るい話題などが
ございましたら、気軽に広報係
までご連絡ください。
☎43・5003(情報課)



未来の全日本バレーボール選手を目指して

大林素子 杯 女子中学生バレーボール大会



▲基礎を指導する大林素子さん

バレーボールによる地域活性化と有望な選手の育成を目的に、バレーボール元日本代表の大林素子さんが実行委員長を務める「第7回大林素子杯中学生バレーボール大会」が5月6日、市文化体育館で開催されました。

島内の中学校バレーボール部9チームが参加し、元日本代表の3人からステップやパスなどの基礎練習の指導を受けたほか、トーナメント形式



▲記念植樹をする中田市長と大林さん

の試合を行いました。

大林さんは「みんな一生懸命練習に取り組んでくれた。学んだことを繰り返し練習し、基礎をしっかりと身に付けてほしい」と話していました。

音楽アンサンブルで全国大会へ

アンサンブル下新庄

林裕子さん(神代)と林雄一郎さん(神代)が所属する「アンサンブル下新庄」が3月24日に福島県で行われた「音楽アンサンブルコンテスト全国大会」に出場し、銅賞を受賞しました。同大会は音楽文化の振興発展に寄与し、歌うことの楽しさを全国に発信することを目的として、平成20年から行われているものです。

同団体は、平成16年に結成され、関西を中心に様々なコンクールやイベントに出演しており、同大会にも平成22年から出場しています。

林裕子さんは「去年の大会は震災で中止になってしまいましたが、今年、福島で被災した人たちに歌を届けることができたということに意味



▲アンサンブル下新庄のメンバー

があると感じている」と話していました。

タスキに気持ちを込めて

消防士タスキリレー



▲南淡分署でのタスキ受け渡し

5月14日、淡路広域消防事務組合の消防士たちにより、東日本大震災・復興応援企画「消防士タスキリレー」が行われました。

この企画は、東日本大震災で被害を受けた消防本部、消防職員及びその家族を応援し、支援するために全国の消防士たちによって行われているものです。3月に鹿児島県鹿児島市を出発してタスキ



▲消防士たちは力強くリレーを行いました

キを繋ぎながら、9月に宮城県石巻市に到着することを目指しています。また参加費などを義援金として、被害を受けた岩手県、宮城県及び福島県の各災害対策本部等に送ることとしています。

この日は洲本消防署を出発して国道28号線を走り、淡路広域消防事務組合の西淡出張所を目指して、17人の消防士がタスキを繋ぎながらリレーを行いました。リレーに参加した前川琢矢さん(松帆)は「行方不明になった人たちが早く見つかって欲しい。そういった祈りをこめて走った」と話していました。

オニオンピックが開催されました

淡路ファームパークイングランドの丘



▲玉ねぎと大声で叫ぶゲーム

淡路ファームパークイングランドの丘で5月19日から27日までの間、オニオンピックが開催されました。期間中は玉ねぎフォトコンテストや玉ねぎ川柳の応募受付が行われ、さらに土曜日と日曜日に

は様々なイベントが実施されました。

オニオンピックは今年で4回目を迎えるイベントで、市の特産品である玉ねぎをPRするために行われているものです。玉ねぎの収穫レースや、玉ねぎ〇×クイズ、玉ねぎを使った島パーガの早食い大会などが行われたほか、玉ねぎのてんぷらなどが振る舞われました。



▲玉ねぎ収穫レースの様子

で優勝した児嶋均さんは「優勝できてうれしい。玉ねぎは大好きなので帰ったら食べた」と話していました。

平家悲話のヒロインをしのび「お局塚」

観光客誘致に保存会、商工会、温泉組合が周辺整備



▲供養祭には地元関係者約40人が参列。路面に淡路瓦のタイルを敷いて整備

伊加利の多摩山(だま)の「お局塚」で4月18日、平家物語にも登場する「小宰相の局」の供養祭が行われました。

小宰相の局は、平清盛の甥、通盛の妻で、一ノ谷の合戦で夫の悲報を受け鳴門海峡に身を投じたとされています。

地元保存会は供養塔を立て、50年前から毎年この日に供養祭を開いています。今年、保存会や商工会、温泉組合では、観光客にも、お局塚へ気持ちよく訪れてもらおうと、周辺にツバキの苗木350



▲ツバキの苗木350本が今年、周辺に植えられました

本を植え、路面に特産の淡路瓦のタイルを敷いて整備しました。

地元には「南あわじ温泉郷」のひとつ美人湯で知られる「うずしお温泉」があります。美人で知られていた局にあやかって温泉をPRし、美容にも良いツバキ油を使った商品開発も考えられています。

読書で「子どもの心をゆたかに！」

第10回読書つ子まつり



▲「絵本の力は無限大」と題して講演する木戸内 福美さん

子どもたちに読書の意欲を高めてもらおうと、5月20日、「読書つ子まつり」が開催され、三原図書館周辺では、多くの親子が参加して様々なイベントを楽しみました。

たり、自分の心を照らしてくれたりする」と話しました。また、この催しは、図書館を身近にもっと活用してもらおうと、毎年多くのボランティア団体が、絵本や紙芝居を読み聞かせたり、人形劇を上演したりしています。

図書館探検や古本市、淡路人形浄瑠璃や民族衣装の体験、軽食コーナーなども賑わい、原寸大クジラアート作りでは、58枚の用紙に親子が思い思いの絵を描いて14mの作品を完成させました。



▲14mの作品が完成した原寸大クジラアート



▲チマチョゴリ体験



▲さまざまなボランティア団体などが、人形劇などを披露。親子が楽しめました